

令和 7 年度浦安市教育委員会 2 月定例会会議録

浦安市教育委員会

令和7年度浦安市教育委員会2月定例会

- I. 日 時 令和8年2月5日(木)
開 会 午後4時00分
閉 会 午後4時27分
- II. 場 所 市役所9階 第1委員会室
- III. 進 行 教 育 長 船 橋 紀美江
- IV. 出席委員 教 育 長 職 務 代 理 者 宮 道 力
委 員 吉 野 則 子
委 員 影 山 純 二
- V. 出席説明者 教 育 総 務 部 長 秋 本 豊
教育総務部次長(教育総務部技監) 泉 澤 一 欽
教育総務部次長(教育政策課長) 村 上 陽 子
教育総務部副参事(教育総務課長) 鈴 木 章 仁
教 育 政 策 課 主 幹 小 倉 隆 志
教 育 施 設 課 長 木 戸 口 宏 志
学 務 課 長 鳥 海 勉
指 導 課 長 宮 崎 智次郎
指導課主幹(教育センター所長) 青 山 陽 子
指 導 課 主 幹 小 黒 拓
保 健 体 育 安 全 課 長 峯 崎 泰 利
千鳥学校給食センター主任栄養士 林 田 充 徳
生 涯 学 習 部 長 近 藤 敏 彰
生 涯 学 習 部 次 長 本 川 昇
生涯学習部副参事(生涯学習課長) 斉 藤 恭 一
(青少年センター所長)

生涯学習部副参事(中央図書館長)	森田志織
市民スポーツ課長	小泉和久
郷土博物館長	島村嘉一
高洲公民館長	佐藤良平
中央公民館長	増田丈巳
堀江公民館長	田中賢司
富岡公民館長	森田和徳
美浜公民館長	佐藤栄一
当代島公民館長	高梨誠二
日の出公民館長	北村章代
中央図書館副館長	三輪進也

VI. 傍聴人 3名

VII. 案件

第1. 会議録の承認

1. 令和7年度浦安市教育委員会12月定例会会議録の承認について

第2. 教育長からの一般報告

第3. 審議事項

第4. 協議事項

第5. 報告事項

1. 教育委員会共催・後援行事一覧
2. 「令和7年度 浦安市成人式 二十歳の集い」開催結果
3. 令和7年度浦安市郷土博物館企画展「浦安の大衆芸能」開催案内
4. 令和7年度第3回公民館運営審議会開催報告

第6．教育委員からの一般報告

第7．その他

開 会 (午後 4 時00分)

船橋教育長 これより令和7年度浦安市教育委員会2月定例会を始める。
それでは、議事に入る。
議事の第1. 会議録の承認である。
令和7年度浦安市教育委員会12月定例会会議録について、承認いただけるか。

(「異議なし」の声あり)

船橋教育長 異議がないので、令和7年度浦安市教育委員会12月定例会会議録については承認された。

なお、会議録の承認に当たり、会議録の署名を吉野委員にお願いする。

次に、議事の第2. 教育長からの一般報告に移る。

私から報告する。

初めに、1月12日に開催した「浦安市成人式 二十歳の集い」について報告する。

本年度の式典には、対象者1,992名のうち1,596名の方の参加があり、80.1%と非常に高い参加率となった。

14名の実行委員の皆様には、昨年6月から準備を進めていただいた。実行委員から提案された今年のテーマを踏まえた企画である「直観の扉」が行われ、式典では、2択の質問に対して、自身の直観を基に回答するというコーナーがあった。どの参加者も迷いながら楽しそうに参加し、中には、隣に座っている人と意見を交わすなど交流の場ともなった。

参加者の皆様は、久しぶりに同級生に会って歓声を上げたり、一緒に記念撮影をしたりと、ハレの日を満喫する姿があちらこちらで見られた。二十歳の門出を祝うかのように天候にも恵まれ、思い出に残る1日となったことと思う。

実行委員の皆様と話をして感じたことは、どの方もしっかりと自分の考えを持っているということである。自分の夢や、これから挑戦してみ

たいことを語る表情はきらきらとしていた。第1回の式典が終了した後に若干興奮した様子で「楽しいです！実行委員になって本当によかったです」と話す素直で純粋な一面も見せてくれた。

次に、千葉縣市町村教育委員会連絡協議会の研修会について報告する。

本協議会は、県内の千葉市を除く全ての市町村の教育長を含めた教育委員で組織されている。浦安市が本年度から3年間会長の市であることから、1月30日に本市を会場に研修会を行った。

当日は約200名の方の参加の下、学びの多様化学校UMIと中央図書館のファブスペースの視察をしていただいた。視察に先立ち、UMIの概要と本市における不登校の状況を説明したが、参加者からは多くの質問があり、活発な情報共有の場となった。視察中もUMIのカリキュラムや職員の配置などたくさんの質問をいただき、中には「今日は遠くから来たかいがあった」「とても参考になった」という感想をくださった参加者もいた。また、たくさんの方々が代わる代わる視察をする中で、UMIの生徒たちはいつもと変わりなく、しっかりと学習に取り組んでおり、感心した。下校の時刻になってもほとんどの生徒が残って、先生や友達と楽しそうに語り合う様子も見られ、視察に参加した方々は、子どもの持つ可能性の大きさを実感されたことと思う。

次に、ICT教育について報告する。

本市では昨年度、一人1台のタブレット端末の入替えを行い、新しいタブレット端末で授業を進めている。また、各学校の各学級に1台、75インチの大型電子黒板を導入した。学校訪問で授業に参加する機会があるが、どの学校も、児童生徒の発達段階に応じてタブレット端末を積極的に活用している。また、大型の電子黒板を導入したことで、各自が端末に入力した自分の意見と複数の友達との意見を一つの画面で比較することができ、活発な意見交換に役立っている。資料が大きく提示されると児童生徒の学習意欲が高まり、特に自分の意見が大きく映し出されると、どの子どもともうれしそうだった。

電子黒板の導入は授業に大いに役立っており、大変効果的であるという意見が多くの校長からあった。中には、電子黒板が導入された翌日からす

ぐに先生たちが授業で活用し、職員間で、より効果的な活用方法について自主的な研修をしようという声上がり、そうした場が持たれたという校長からの報告も受けている。

また、メディアセンターを整備した学校の授業を参観したが、どの授業も学習にとっても集中している児童の様子が印象的だった。2年生の児童が慣れた手つきで操作する様子には驚かされたが、日常的に活用していることの表れとうれしくなった。

本市では、メディアセンター、大型電子黒板とICT機器が大変充実している。各学校では積極的な活用を進めているところであるが、本来の目的である子ども達の学力の向上、コミュニケーション能力の向上につながる効果的な活用の在り方について、今後も引き続き検証していきたいと考えている。

さらには、書く力、話す力を高めることも重要であり、きめ細かなノート指導や話し合う場面の設定などにもしっかりと取り組んでまいらる。

早いもので、本年度も残すところあと2か月足らずとなった。子ども達の中にはそろそろ進級という意識が高まってくる時期でもある。子ども達には、自身の成長を実感することができる1年の振り返りやまとめを行ってほしいと期待している。

また、卒業する上級生やお世話になった方々に感謝の気持ちを伝える行事の準備も始まる。子ども達には感謝の気持ちとたくさんの人たちに支えられた経験を力に変えて、次のステップに進む準備をしてほしいと願っている。

以上、私からの一般報告とする。

次に、議事の第3．審議事項に移るが、本日の上程はない。

次に、議事の第4．協議事項に移るが、本日の上程はない。

次に、議事の第5．報告事項に移る。報告事項については、配布した資料をもって報告とさせていただきます。

それでは、議事の第5．報告事項に対する質問を受け付ける。

影山委員 質問ではなく感想だが、成人式について2点お伝えする。

1点目は、今年度のテーマが漢字四文字で「万扉一鍵」ということで、毎年思っていることであるが、いつもすばらしい言葉を選んでいることにとても感心して見させていただいている。実行委員とそれをサポートする皆様のおかげだと思うので、ぜひ来年も驚かせていただければと思う。

2点目は、これも毎年感じていることだが、もう少し実行委員の男性の比率が増えるなど、男性の頑張りが見えるようにしてもらえるといいと思う。ぜひ、そういった声があるということをお伝えいただければと思う。

船橋教育長 今年の実行委員長は男性だったが、確かに人数的には女性のほうが多いというのは私も感じた。同じくらいの比率が一番望ましいと思うので、今後、男性がますます増えていくように周知等していければと思う。また、テーマについては、私も本当に言葉をよく知っているなど感心したところである。改めて、影山委員をはじめ教育委員の皆様にも御出席いただき、ありがとうございました。

ほかはいかがか。よろしいか。

では、次に、議事の第6．教育委員からの一般報告に移る。

各委員の皆様から、近況報告などについて、一人ずつお願いしたい。

宮道委員 2点ほどお話をさせていただく。

1点目は、先月も少しお話をしたところだが、拡散したいじめの動画の問題についてである。私はどちらかという、仲間内でこれは駄目なことだという意味で後発的に出したのかと思っていたのだが、恐らくそうではなく、悪乗りで出したのかと思われ、非常に残念に思うとともに、大変大きな問題だと思ったところである。

この件と不登校の問題を考える中で思ったことだが、学校現場での子どもの支援の連携については、様々なセンターがあったり、スクールカウンセラーがいたり、相談等の役割の方が多様にいらっしゃるけれども、うまく連携ができているのか、改めて見直しや点検をする必要があるのではないかと思った。日頃からそういった連携は行われていると思うが、利用者が自らの意思で複数の相談先等を利用するようなケースもあると思われる。

利用者として子どもや保護者の立場に立ったときに、あちこちで同じ話をするようなことができるだけない形が良いと思うし、相手側としても同じ目線で支援をするためのレベル合わせができるといいと思う。福祉の関係でも子どもを取り巻く支援の機関が様々あると思うが、いかに連携を円滑にするのか、スタッフ同士の連携方法や、情報の共有をして、不測の事態に備えつつ常日頃確認していく必要があると、拡散動画の件を考えて改めて思った。

また、いじめについて調べるうちに、大阪府の寝屋川モデルというものがあると知った。これは教育的アプローチと行政的アプローチと法的アプローチ、この3段階を並行させて取り組むモデルであるとのことで、これを研究することにも興味があるし、ご存じかもしれないが浦安市の行政の皆様にもお伝えしたい。

2点目は、アンガーマネジメントについてである。私が所属している大学では、ハラスメントを撲滅しようとトップ以下全学が動いているところだが、その中で私がアンガーマネジメント研修を部局から頼まれて行った。実際にやってみて思ったことだが、ハラスメント対策だけではなくて、先程の話題の動画の子どもの暴力を見たときにも思うが、怒りを適切にコントロールする方法を学んでおくと自分自身にとっても良いことだと思った。なぜこの人はこんなに攻撃的なのだろうと、相手を理解する上でも役立つと感じたので、話題提供としてお話す。

宮崎指導課長 いじめ問題、不登校問題にかかわる連携について、もちろん校内については、先ほど委員がおっしゃったとおり、スクールカウンセラーを中心に、養護教諭、それから生徒指導担当等が定期的に校内会議で情報共有をしている。

ただ、諸々複雑化している件もあり、それぞれのスクールカウンセラーも、今空きがないほどの繁忙を抱えるカウンセラーもいる。そのような状況で、緊急の対応が必要になったときに、迅速な、タイムリーな対応ができていくかどうかというところは今課題だと考えている。

支援機関との連携については、例えば先ほどのSNSの拡散問題などは、

青少年センターでネットパトロールをしている。何か問題のあるものが検出されると、指導課を通じてすぐ学校に連絡をし、対応することが現在できている。

ほかの支援機関であるこども家庭支援センターについては、毎月報告を上げながら常に状況を追っているところであり、このほか支援を実際に行う要保護児童対策支援協議会でも毎月事例等を確認しているので、共有は逐一行われていると認識している。

船橋教育長 不登校に関してはいかがか。

宮崎指導課長 不登校については、学校内でまず基本的には対応する。校内の支援室やオンラインでの学習設備を使用するが、どうしても学校に行きづらいという子どもに対しては、いちよう学級が一つの相談窓口として、相談から学習支援というものにつなげている。以前に比べて学校の先生はいちよう学級にも頻繁に顔を出していて、そこで関係をつくるといったこともできてきている。こういったことを通じて、子ども達がまた学校に来られるような支援体制が進んできていると感じる。

船橋教育長 先日、校長の研修会があり、私も助言者のような立場で行って聞いてきたのだが、その中に不登校支援というテーマで、校長先生たちがグループで1年間様々な調査研究、アンケート調査等も含めて行った発表があった。担任の先生たちが一番困っている、不安に思っているのが、なぜ学校に来られないのかという明確な理由がなかなか分からないところが困っているということと、もう一つは、自分に何か要因があるのではないか、それで学校に来られなくなっているのではないかと感じている先生がいることだと発表の中で聞いた。

私がそこで校長先生方に伝えたのは、「なぜ学校に行けないのか」ということが担任の先生たちが分からないのは、もしかしたらその子本人や親御さんもなぜなのか分からないからなのかもしれません。だから苦しいのかもしれないということを伝えた。

また、教員に多いのだが、一人で抱えてしまう、自分の責任ではないかと思ってしまうところがあるのだけれども、そうではなくて、様々な機関とつながることで、その子に一番大切な、ふさわしい、一番適切な支援ができるのだということ、その中で先生ができることがあるかもしれないという話をした。

例えば、先ほど指導課長からもあったとおり、いちよう学級に行けるのであれば、そこで担任の先生は時々顔を出して子どもに声をかけるのが役割であって、何かそういう役割をみんなで見つけていくのも一つかもしれないという話をした。

いずれにしても、校長会も不登校支援については研究に取り組むなど調査研究を進めているので、行政も一緒に進めていきたいと思っている。

吉野委員 最近のはやっている病気についてお話す。

先週から、小学校高学年から中学校、高校の初めぐらいの方にインフルエンザBり患の方がみえる。急に立ち上がったので、いろんなところで学級閉鎖になっているかと思われる。

展望としては、いつもの感じだとあと2週間ぐらいは続くかと思うので、いつもお伝えしているが、手洗い、マスクを励行していただきたいと思う。

それと、感染性胃腸炎とあって、ノロウイルスのような類似のウイルスがはびこっているようで、保育園などでも集団発生しているようである。こちらは手洗い以外に防ぎようがないので、とにかくインフルエンザにしても感染性胃腸炎にしても、手洗いを励行していただきたいと思う。

寒い時期、ほかの感染症も少しは発生しているが、何しろ寒くないようにすること、栄養を取ること、休むこと、それから手をよく洗うこと、これが一番いいと思うので、ぜひよろしく願います。

船橋教育長 私のところにも学級閉鎖等の報告が毎日上がってくるが、大分はやってきているなというのを感じる。

吉野委員 栄養、睡眠、休息。要するに免疫機能が高まるように暮らしたほうがいい

い。子ども達は塾に行ったりして疲れているかもしれないが、なるべく規則的に休むようにしたほうが、この時期はいいと思う。食べたくなくてもちゃんと食べて、栄養を付ける。

大人もそうであるが、きちんと規則的に栄養価のあるものを取っていただくというのが一番いいと思う。それから、シャワーだけでなくお風呂にもしっかり入って温まって、休息の前段階にしてもらおうといい。

船橋教育長 私たちも気をつけなければいけない。栄養や休息など、校長会のほうにも会議のときに伝えようと思う。

影山委員 千葉県市町村教育委員会連絡協議会の教育長・教育委員研修会についての感想をお伝えする。

研修会ではUMIについて講演があり、いろいろ体系的にまた学ばせていただいた上で、UMIを拝見させていただいた。私自身、UMIに行ったのはこれで3回目だったが、今回行って気づいたというか、はっとしたことは、こんなに部外者である大人が来るのだから少し緊張しているのかなと思っていたが、入った瞬間、生徒みんなが笑顔で、本当に学校に行けなかった子どもたちなのかと、そのぐらいの驚きがあった。

生徒同士での人間関係も、先生との人間関係もつくっているし、去年学校に行けなかった子ども達が、こうやって今楽しそうに勉強しているというのは改めてすごいなと感じた。

そこで改めて、人の力、教員、あるいはそれをサポートする皆様方の力というのはそういうところで生きているのだなと思って、すごく感動、感激した。

今年度は15名程度の生徒がいると思われるが、その人生はこれで変わったのだろうなと思うところもあるし、教育長が前から話しているように、その家族も含めれば本当に数十名、あるいは100名程度の人間の人生がこれで救われている可能性もあるのかなと思うと、これはすごい価値があることだったのだなと改めて思った。引き続きぜひよろしく願います。

船橋教育長 UMI の子ども達は、本当にどんどん表情がよくなっていて、やはり子ども達は大きな可能性を持っているのだなということを行くたびに実感する。

また、委員からお話しいただいたように、人の力という大きな力で、UMI の先生方が本当に愛情をかけて子ども達に接しているのが私にもすぐく伝わってきている。教育委員会では、子ども達の居場所の選択肢をできるだけ増やしていこうと、どんなことができるのか考えていく中で、担当者に伝えたのは、「もしかしてこの取組で救われる子は3人かもしれない。でも3人の子には御両親がいて、おじいちゃん、おばあちゃんがいて、家族がいて、親戚の人たちがいて、それは3人ではなくてたくさんの方の力になるんだよ」という話を常々している。うちの次長からは、「もしかしたら担任の先生も救うことができるかもしれません」という話もあった。

教育委員会は、不登校支援でもいじめ対策でも、常に議論を交わしながら、どうしたらこの子たちの将来にわたっての幸せにつなげることができるのかということを考えている。その中で、影山委員のような温かい評価をいただくと励みになる。ぜひUMI の先生方に、今日の影山委員のお話をしっかりと伝えたいと思う。ありがとうございます。

それでは次に、議事の第7. その他に移るが、本日はその他の上程はない。

以上で令和7年度浦安市教育委員会2月定例会を閉会する。

閉 会 (午後4時27分)